

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 横浜市立鶴見小学校

① 学習指導案

プログラム	No.11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全70時間)	STG's ~持続可能な鶴見川を目指して~
学習のねらい	身近な川の景観を守るために地域と連携して社会的課題の解決に取り組み、地域を明るくし盛り上げる。
学習内容	1 鶴見川を調査し、川の実態と課題を調べる 2 解決のために計画を立て、地域と協働しながら具体的な行動を展開していく 3 活動の成果を分析し、これからも持続可能な活動となるようにする 4 官民学で協働的に活動する「鶴見リビングラボ」を発足させる
参考資料 準備品 実施場所等	○横浜市ホームページ > 暮らし・総合 > 住まい・暮らし > ごみ・リサイクル > 環境学習 > 地域での環境活動事例 (詳しい情報は、YouTube概要のリンクに掲載) https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomi-recycle/gakushu/chiiikatsudou.html ○OBS NHK「都会の水辺 鶴見川 命にぎわう流域の風景」出演 ○タウンニュース 他

学習の流れ

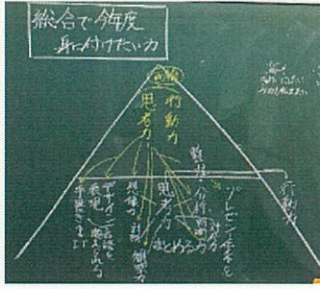

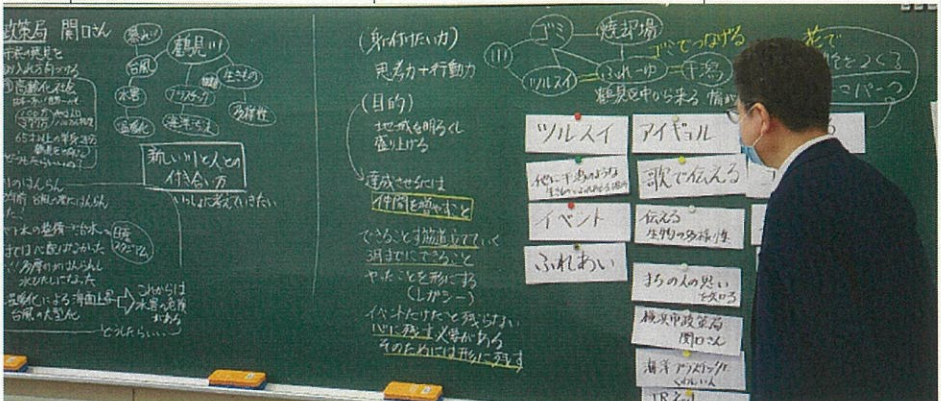
時間	学習活動	教師の指導	評価
1 ～ 6	<p>1. 総合を立ち上げよう。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの総合を振り返り、今年度の取組について話し合う。 話し合ったことをもとに材・活動を考え、ゴールを明確にし、見通しをもつ。 	<p>昨年度の活動経験者とそうでない児童の意識にずれがないように体験活動を取り入れる。また、何のために活動をしていくのかという目的意識(ゴール)と活動内容(目標)を明確にする。また活動を通して身に付けたい力も自分たちで確認する。</p>	<p>川に生き物がたくさんいること、ごみあがることを知った。実際に行動し体験することで、まちの課題が自分ごととして捉えられるようになった。</p>
7 ～ 9	<p>2. まちのごみを分析してみよう③</p> <ul style="list-style-type: none"> まちのごみを拾い、分類しながらよく調べ、分析する。 自分たちが課題解決へ向けてできることを考え、活動内容を決定し、今後の活動計画を立てる。 	<p>ごみを拾い集めるだけでなく、集めた後に分別し、何ごみが多いのか、それはどんなごみなのかを調べ、どのような場面で捨てたのかまで考え、分析を行う。</p>	<p>行動する前は、積極的になれなかった児童も、自分が行動したことできれいになっていくまちを見て、意欲が高まった。意識があるから行動するのではなく、行動するからこそ意識が高まることを実感させることができた。</p>
10 ～ 46	<p>3. ツルスイで川の魅力を発信していこう。⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> 鶴見川流域ネットワークから川の歴史や生物のことを学ぶ。 ツルスイの会場は、商業施設(リコパ鶴見)、商店街(ベルロード)、ナイス(株)本社ビルと様々な方たちと交流しながら開催していく。 飼育担当やイラスト担当など役割分担して協働的に準備を進める。 それぞれの会場の責任者の方たちと思いを共有しながら準備を進める。 	<p>水族館の準備に当たっては、自分の得意なことを生かして活躍できるようにする。また、様々な方との打ち合わせや交流を通して、自分の思いやアイデアを出し合い、積極的に課題解決へと向かうようにする。</p> <p>開催することで、相手の方にも利益がでるようにすることで、持続可能な活動となるようにした。</p>	<p>開催場所によって、伝える対象の特徴が変わったり、効果的に知ってもらうための工夫も変えたりした。自分たちでより分かりやすく伝えるために協働的に話し合い、制作し、表現できるようになった。</p>
47 ～ 60	<p>4. 音楽家 Aさんと映像をつくらう④</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽家 Akeboshiさんとごみを楽器にして音を録音し、曲をつくる。 また國學院大学准教授に作詞講座を行ってもらう。 自分たちが伝えたいことやこれからの鶴 	<p>自分たちの制作したいものではなく、伝えたい人に伝わるかどうか、相手意識をもって制作するようになった。また、相手ははっとするような仕掛けを考え、印象が残るよう工夫した。</p>	<p>自分たちが考えた言葉や文章だけで表現しようとするのではなく、専門家やプロの人たちの話を聞くことで、より豊かな表</p>





	<p>見川とまちとわたしたちの関係を言葉にし、今までの活動の画像や動画と音楽で映像を制作する。</p> <p>・映像は、資源循環局3R推進課から横浜市公式YouTubeチャンネルにアップしてもらおう。</p> <p>5. 鶴見 SDG's ラボを立ち上げ、持続可能な活動にしよう。⑩</p>		<p>現ができるようになった。</p>
61 ～ 70	<p>・若い世代の人に活動の目的を知ってもらい、よりよいまちにするためにこれからのツルスイのことを考え、自分たちにできること、この活動の今後のことについて話し合う。</p> <p>・YouTubeなどを活用して、関わってくださった方への感謝を伝えるとともに、この活動が持続可能なものとなるように、STG's ラボを立ち上げる。</p>	<p>持続可能な活動といっても、人任せではなく、どこまでいっても自分たちが続けられることを継続していけるように、地域の方、商店街、地元企業、行政などと手を取り合い、リビングラボとして立ち上げ、今後の活動の基盤を作るようにした。</p>	<p>今まで連携してきた地域の方や商店街、地元企業とラボを立ち上げたことで、卒業後も持続可能な活動となった。</p>

<留意点>



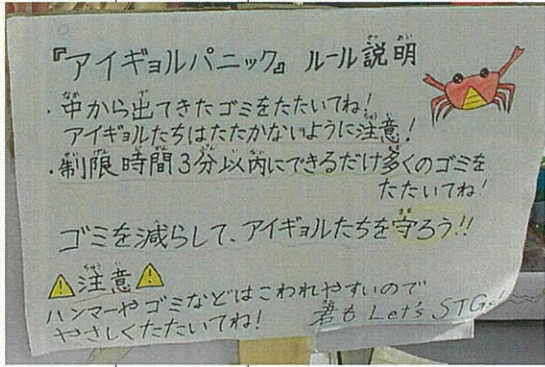

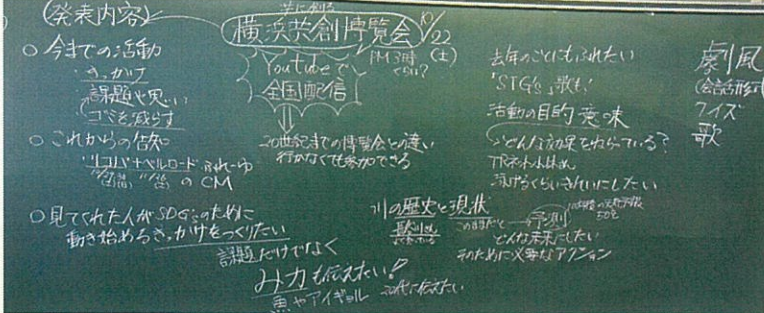
② 事業実施報告書詳細



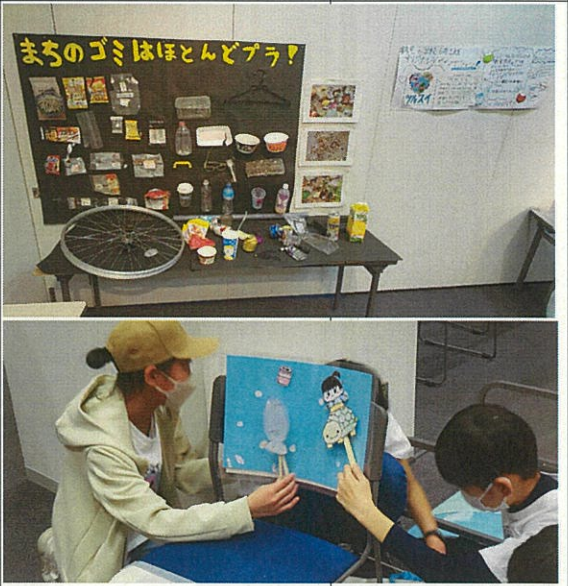

学校名 横浜市立鶴見小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	今年度身に付けたい力		昨年度、身に付いた力を振り返り、今年度身に付けたい力を整理したことで活動に対する意識が高まった。
2	教室	今年度の活動の目的と手段(材)を考える	SDG's 地域のためになること まちを明るくする	まだ、目的は決まっても手段は決まらなかった。
3-6	鶴見川	鶴見川探検	生物の多様性を発見	ごみがあるのがもったいない。海に流れる前に、少しでもごみを減らしたい。自分たちだけでは、できないからどうしたらよいか考えたい。
				
7	教室	探検の振り返りと今後やっていきたいこと		ツルスイの活動に決定する。
8,9	教室	思考技術について考える	論理的思考と非論理的思考の違いを知り、思考することのよさを理解できた。	参考図書「パン屋ではおにぎりを売れ」(かんき出版)
10 11	教室	横浜市政策局共創推進課 関口さん	今後の筋道を整理する	
				

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応	
12 ~ 13	学区 ~ 千潟	地域のごみ拾い		初めは乗り気ではなかった児童も、やってみると楽しくなり、「次はいつ行くの。」と聞いてくるようになった。	
14	商店街	ベルロード商店街副理事長に自分たちが解決したい課題を伝え、一緒に解決のためにできることをしたいという思いを伝え、協力してもらえることが決まった。		商店街での課題も共有し、お互いが課題解決のために協力し合える関係になれるようにしたいと感じていた。	
15 ~ 18	教室	音楽家Akeboshiさんが協力してくれることが決まり、ごみを楽器にするために、ごみ拾いを行った。		音楽と映像と朗読(自分たちが伝えたい言葉)で映像配信していくことに決定する ※配信は横浜市資源循環局から横浜市公式YouTubeチャンネルにて行うことになった。	生活に関係しているごみが多いことが分析から分かった。一人一人の意識が変わらないといけない。
					
19 ~ 20	教室	鶴見川流域ネットワークの小林さんとZoomでオンライン授業 まとめと振り返り		鶴見川の歴史や水質のよさや生物多様性を知ることができた。	

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
21	学校内 倉庫	集めたごみをつかって音を出してレコーディング		
22 ～ 26	教室	「よこはま共創博覧会」での発表へ向け、発表方法や内容についての決定と計画・準備		
0 休日 時数 計上 なし	横浜 市庁舎	横浜市庁舎1Fアトリウムにてツルスイの今後の計画の発表とごみを楽器にした音楽の音源発表 および、横浜市議会議員や横浜市資源循環局3R推進課課長らと意見交換		
27 ～ 34	教室	リコパ鶴見でのツルスイ開催へ向けた計画と準備 開催する土日は、親子連れの来客が多いため、ゲームコーナーを作り、子どもには興味をもってもらい、大人には課題を知ってもらう計画を立てた。		
0 休日 時数 計上 なし	鶴見 リコパ	リコパ鶴見店ツルスイ店内のオープンスペースにて、水槽で生き物を展示したり、鶴見川の歴史や水質、魅力と課題を展示。		店内での撮影が禁止だったため記録画像はありません。

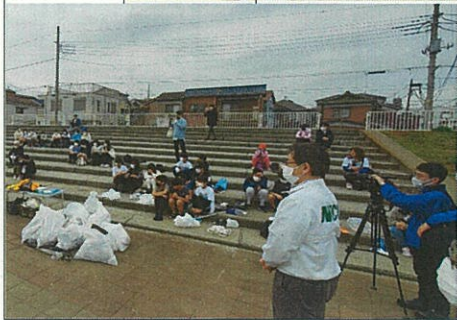
時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
35 36	ナイス 株式会社 本社ビル	ツルスイの活動と今後の 計画の説明とナイス株の 取り組みを交流し、これか ら一緒にできることを考える。		
37 ~ 44	教室	ベルロード商店街でのツ ルスイの開催準備		相手意識をもち、来 場する人に合わせ た準備を進めること ができた。
			↑スタンプラリー形式で水 槽とセットにすることで、いろ いろな店舗を回り、店にも貢 献したいというアイデアで制 作した。 ←生き物の魅力とごみを減 らしたいという思いから考え たゲーム	
0 休日 時数 計上 なし	商店街	鶴見銀座商店街ベルロード にてツルスイ開催		来場者へ向けてゲームで関 心を高めながら、話かけるこ とで課題意識を共有した。 川をどう思うか聞く と、若い人は「汚い」 、年齢が上になると 「きれいになった」と 、意見が違うことに 気づいた。直接話さ ないと、わからない ことがあることを学 んでいた。
45	教室	今までのツルスイの振り 返り、活動計画を立てる		

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
国語のため 時数 計上 なし	教室	國學院大學准教授に国語「人を引きつける表現」の授業をしてもらい、映像発信の朗読文章を考えたときに表現の工夫として使う修辞法について学んだ。		
46 ～ 47	干潟 教室	NHKの取材のため、干潟での生き物採集をした。また、映像づくりについてプロのやり方を学んだ。 令和5年3月22日放送BS「ワイルドライフ」～都会の水辺 鶴見川 命にぎわう流域の風景～にて取り上げてもらった。		
48 ～ 54	教室	つるみ・ちゅうらうみ展2023(ちむどんどん実行委員会による鶴見と沖縄の共催イベント)に鶴見区役所から参加依頼を受け、ツルスイとしての参加が決定。開催の準備を進め、実際に拾ったごみの展示やごみを川へ流さないで欲しいという思いを込めた紙芝居を制作した。		
55 56	サルビア ホール	つるみ・ちゅうらうみ展2023にてツルスイ搬出作業		

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
0 休日 時数 計上 なし	サルビア ホール	つるみ・ちゅうらうみ展202 3にてツルスイ開催		
57 ～ 60	横浜 市庁舎	横浜市庁舎1Fアトリウムにて「はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会」へ出席 完成した映像作品を発表した。		
61 ～ 65	教室	ナイス(株)本社ビルにてツルスイ開催のための準備を進める		



時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
66 ～ 69	ナイス 本社 ビル	<p>持続可能会議と題して今まで連携を図ってきた方たちと、卒業後にどんなことが継続できるのか、その可能性を話し合い、可能性を探る。</p> <p>○参加者 鶴見小学校児童39名担任、校長、ナイス社員、横浜市政策局共創推進課、鶴見川流域ネットワーク、学校地域コーディネーター、区役所職員、商店街副理事長、市議会議員、これつる編集長、まちづくりカウンセラー</p>	<p>詳しくは、https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomirecycle/gakushu/c-hiikikatsudou.html のYouTube概要に動画リンク掲載</p> <p>○明日を開く「YOKOHAMA会議 市議会議員からこの活動がきっかけで、令和5年度には、鶴見川調査費が予算として確保されたことが報告され、自分たちの活動が地域の方に共感され、行政も動いたことに感動した。</p>	<p>今まで活動してきたことがフィードバックされたことで、「やってきた意味があった。」「これからもできることを続けていきたい」という思いを確認することができた。</p>
70	教室	<p>一年間の活動を振り返り、身についた力について考えた。</p>		<p>これからも年一回の活動を継続していくことを楽しみにしている。</p>
0 卒業後 のため の ため の ため 計上 なし	学校 地域 干潟	<p>第1回「Lets'ツルスイ大作戦!」を開催。鶴見STG sラボとしての初めての活動となった。</p>	<p>卒業生、地域の方、商店街、地元企業、在校生など60名ほどで学校から干潟までの清掃活動をした後、干潟にて生き物採集を行った。</p>	<p>イベント後には、動画配信のQRコードが載ったファンブックをまちの商業施設に置かせてもらうなど、自分たちの活動を積極的に広めようと、主体的に計画を立て、実行する姿が見られた。</p>



③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

児童たちが自ら経験したことでなければ伝えることはできないため、体験や経験を繰り返し活動に取り入れた。また、様々な専門家や機関と連携を図っていくことで、本学級の活動に賛同し、応援して下さる方となり、鶴見川の魅力と課題を共有する同志として、仲間になれるようにした。そして、楽しくなければ続けることはできないという助言から、年に一度のイベントを開催していくことで、同窓会のような意味合いを持ち、また集まりたくなる企画にしたこと。

(2) 実施にあたり苦労した点

6年生としての活動だったため、卒業後に活動をどうするのか課題であった。後輩に引き継げば、始めた自分たちとモチベーションにずれが生じるし、担任が引き継ぐといっても何年かすると移動があるため、継続は難しい。なにより誰か任せの持続可能な活動にしてよいかということから、自分たちが続けられることを継続していこうということになるまでは、見通しが立たなかった。

(3) 児童の反応

初めは乗り気でなかった児童も、実際にごみを拾ってみるとどんどんきれいになる様子を体験したことで、「もっとやりたい!」「次はいつやるの?」と意欲が高まった。その後、登下校時にビニル袋を持参して率先して落ちているごみを拾う児童や、放課後に公園で遊んだ後にごみ拾いをしてから帰る児童などの変容が見られた。気持ちがあるからごみを拾うのではなく、行動することで後から心がついてくることが分かった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

子どもは、経験をしていないことは考えられないし表現もできない。しかし一度経験したならば、そこから多くのことを考え、創造し、大人が思ってもみなかったような解決方法を提案してくる。それは今までの常識では考えられないようなことばかりだが、非論理的思考によって生まれてきた発想や考えは、大人の知恵と経験と合わさったときに、今までにない問題解決のプロセスを生み出せることを学んだ。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

今回鶴見STGsラボというリビングラボを立ち上げた。そこには地元企業や商店街、地域の方などが集まり、今後も活動を継続していくことを約し合った。今後は、年一回の春分の日イベントを定例で開催しながら、この活動の趣旨や目的に賛同してくれる人を仲間として増やしていきたい。横浜市での本格的なごみの調査も開始される。これから加わる人たちも、自分たちと同じように川には生物がたくさんいるという生物多様性という魅力を発信したい、ごみがあるという課題を解決したいという思いを共有しながら、活動を続けていきたい。

総合的な学習の時間 学習指導案

横浜市立鶴見小学校

指導者 早川 洋一

1 日時・組 令和4年11月29日(火) 第5校時 第6学年1組 39名

場所 6年 1組 教室

2 単元名 「STG's～持続可能な鶴見川を目指して～」

3 単元について

<p>子どもの思いや願い</p> <p>昨年度、鶴見川を材にして活動してきたツルスイであるが、クラス編成もあり川のことをよく知らない児童が多かった。そのため、話だけでは分かりにくいということで探検に行った。すると、河川には多くのごみがあることを改めて実感するとともに、干潟にはカニなどの生き物が豊富であることも知った。川の魅力である生物の多様性を広めながら、ごみを減らしていきたいという思いをもった。しかし、昨年度の取組により、ツルスイ開催だけでは問題は解決できないことも分かった。そこで、まちの人たちとつながり、協力することで問題解決への意識が共に高まっていけるようにしたいという思いをもっている。</p>	<p>身に付けさせたい力と材について</p> <p>川の歴史や生物について専門家から学び、水族館を開催する。川の魅力を発信し、まちからごみを減らすために、どのような方法で表現することが効果的かを考え、水族館や展示だけでなく楽曲も制作する。音楽家と映像制作し、朗読のメッセージは、國學院大學准教授に教えてもらう。多くの専門家と出会うことで、専門的な知識・技法だけではなく、働く人の生き方に触れ、自分の生き方を考えていくきっかけになると考える。また、地域の方と何度もかかわることで、学校とまちのつながりについて気付くことができる。自分もまちの一員であるという意識を高め、まちの一員としてこのまちをよりよいものに発展させていきたいという思いを高め、思考力と行動力を両輪とした活動としたい。</p>
---	--

単元目標

「鶴見川的环境から持続可能な取り組みを考えたい。」「地域の方々へ向けて、まちの環境をよりよくすることが、川の未来へつながっていることを発信したい。」という思いの実現に向け、鶴見川生態調査やツルスイの活動を通して、学校は地域や様々な方々とつながりながら文化や環境を形成していることを知り、環境に対する自分たちのかかわり方に気付くとともに、学校や地域の今後の発展のために自分にできることを考え、行動しようとする。

探究課題の解決を通して育てたい資質・能力

探究課題	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
<p>【探究課題の分類】 身近な自然環境や環境問題、環境保全に取り組んでいる人々や組織</p>	<p>○鶴見川的环境保全、改善に取り組むことは、環境に対する人間の責任と役割があり、自分自身が行動することがその実現に直結することが分かる</p> <p>○自分にできる活動を考え、効果的に方法発信する。</p>	<p>○身近な環境や様々な自然、社会の事象から問題を発見し、解決への方法や手順を考える。</p> <p>【課題の設定】</p> <p>○身の回りの自然や地域社会の中での体験活動や調査、各教科の見方・考え方を活用し、目的に合った情報を得る。</p> <p>【情報の収集】</p> <p>○課題の解決に向けての予想や仮説を立て、見通しをもち、必要な情報を選択、精選するなどして情報を整理・分析する。</p>	<p>○課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして、力を合わせ粘り強く取り組もうとする。</p> <p>○身近な環境問題に主体的に関わり、自己の生活を見つめ直し、地域のためにできることを実行しようとする。</p>
<p>【探究課題の分類】 学校や地域の方や専門家の方の出会いから考える将来の生き方</p>	<p>○様々な仕事にはそれぞれ魅力があり、働く人は、夢や誇りをもち努力していることが分かる。</p>	<p>【整理・分析】</p> <p>○自分や集団の思いや考えをまとめ、相手や目的、条件などに応じて表現する。</p> <p>【まとめ・表現】</p>	<p>○自己の成長や大人に近づくことを自覚したり、多様な考え方や新たな視点を受け入れようとしたりしようとする。</p>

4 研究テーマに迫るための手立てと単元構想 (全70時間)

STG 's ~持続可能な鶴見川を目指して~

1. 総合を立ち上げよう。⑥

- ・これまでの総合を振り返り、今年度の取組について話し合う。
- ・話し合ったことをもとに材・活動の候補を考える。
- ・ゴールと計画を明確にし、見直しをもつ。

- ・昨年度のツルスイの活動が継続できるといいな。より地域と協力していきたい。
- ・5年2組でなかった人は、まだ川のことをよく知らないから、一度探検に行きたい。
- ・ツルスイの活動を通して自分たちの思いが実現できそうだな。

【教師の支援①】
昨年度の活動経験者とそうでない児童の意識にずれがないように体験活動を取り入れる。また、何のために活動をしていくのかという目的意識(ゴール)と活動内容(目標)を明確にする。また活動を通して身に付けたい力も自分たちで確認する。

2. まちのごみを分析してみよう③

- ・まちのごみを拾い、分類しながらよく調べ、分析する。
- ・自分たちが課題解決へ向けてできることを考え、内容を決定する。

- ・ごみを実際に拾ってみるとプラゴミが多かったな。特にカップ麺の調味料やお菓子の袋が目立っていたな。
- ・プラスチック資源循環促進法も出来たから、この分析結果を企業や地域のお店に知ってもらって、何かできないかな。

【教師の支援②】
水族館の準備に当たっては、自分の得意なことを生かして活躍できるようにする。また、様々な方との打ち合わせや交流を通して、自分の思いやアイデアを出し合い、積極的に課題解決へと向かうようにする。
開催することで、相手の方にも利益がでるようにすることで、持続可能な活動となるようにしたい。

3. ツルスイで川の魅力を発信していこう。③⑦

- ・鶴見川流域ネットワークのKさんから川の歴史や生物のことを学ぶ。
- ・ツルスイの会場は、校内⇒ベルロード商店街⇒LICOPA⇒千潟⇒ナイス(株)と様々な方たちと交流しながら開催していく。
- ・飼育担当やイラスト担当など役割分担して協働的に準備を進める。
- ・それぞれの会場の責任者の方たちと思いを共有しながら準備を進める。

- ・商店街では、スタンプラリーのような形にして、色々な店舗の前で開催できるとお店にも貢献できるかな。アイギョルのスタンプを作りたいな。
- ・他にも、楽しんでもらえて環境意識も高まるアイデアを出していきたい。
- ・Kさんから、鶴見川の歴史や生物のことについて学ぶことができたね。

【教師の支援③】
プロから学ぶことは技術やアイデアだけではなく、どのようなことを大切にしているのかなど、生き方を学べるようにする。そして、それがこれからの自分にとって大切なこととなるようにしたい。

4. 音楽家Aさんと映像をつくらう④

- ・音楽家Aさんとごみを楽器にして音を録音し、曲をつくる。また國學院大學准教授のYさんに作詞講座を行ってもらおう。
- ・自分たちが伝えたいことやこれからの鶴見川とまちとわたしたちの関係を言葉にし、今までの活動の画像や動画と音楽で映像を制作する。
- ・ナレーションを決めて、YOUテレビの方とレコーディングを行う。
- ・映像は、資源循環局3R推進課から横浜市公式YouTubeチャンネルにアップしてもらおう。

- ・自分たちが拾ったごみで録音した音が、こんな曲になるんだな。この曲を生かして伝えたいことを言葉にしたり、映像の構想を考えていこう。
- ・自分たちの思いや願いを込めた曲を作ることができたね。

【国語】
人を引きつける表現
【国語】
今、私は、ぼくは

5. 鶴見SDG'sラボを立ち上げ、持続可能な活動にしよう。⑩

- ・若い世代の人に活動の目的を知ってもらい、よりよいまちにするためにこれからのツルスイのことを考え、自分たちにできること、この活動の今後のことについて話し合う。
- ・ドキュメンタリー映像やYouTubeなどを活用して、関わってくださった方への感謝を伝えるとともに、この活動が持続可能なものとなるように、SDG'sラボを立ち上げる。

- ・自分たちの思いを伝えることができたね。来年度は、後輩がこの活動を受け継いでくれるといいな。これからも自分たちができることも考えて、まちの方々と関わっていききたいな。

【教師の支援④】
自分たちの活動を振り返り、自分たちだけでは決して開催できなかったことを改めて実感し、地域の方に支えられてきたことに感謝できるようにしたい。

5 小単元の構想

(1) 本小単元で育てたい資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
○鶴見川には生物が豊富であり、水質もきれいだという魅力と、ごみを減らす課題があることが分かり、その課題解決のために必要な活動を考え、効果的に情報発信できるようにする。	○川の課題をまちの人たちと共有するために、実施したツルスイの振り返りを比較、分類、関係付けるなどして、情報を整理・分析する。 ○自分の思いや考えを立場や根拠を明確にしながらまとめ、相手や目的に沿って表現する。	○課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして、力を合わせ粘り強く取り組もうとする。 ○開催場所の特徴に合わせて、効果的な発信方法を考え、自分たちの思いや願いを伝えていこうとする。

(2) 小単元目標

開催場所の特徴に合わせて効果的な情報発信の仕方が分かり、相手を絞って活動の目的や自分たちの思いを伝える活動を通して、相手や目的に沿って表現できるようにする。また、これまでのツルスイでの情報発信を振り返り、川の魅力と課題の共有ができたかどうか、情報を整理・分析し、さらに効果的に情報発信をすることができるようになる。

(3) 小単元展開

学習課題と学習活動

期待する子どもの姿・変容

3. ツルスイで川の魅力を発信していこう③

○よこはま共創博覧会で自分たちの活動を発信して、ツルスイの宣伝をしよう。

- ・川の魅力を伝えるとともに、課題の共有ができるように準備を進める。
- ・5年生の時の活動の報告と6年生の活動計画の発信に分ける。

- ・最後の発表だから、聞いている人が飽きないように劇にして、掛け合いで伝えられたらいいね。
- ・自分たちの活動を振り返って、伝えたいことを整理することで、伝えるために必要なものが何なのかを整理することができたな。

○リコパ鶴見でのツルスイを開催しよう。

- ・ツルスイ開催のために必要な準備について具体的な内容を上げ、役割分担を決める。
- ・セクションごとに計画を立てて、準備を進める。
- ・開催場所を確認して、必要な大きさや展示内容の量などを整理していく。

- ・6つのセクションの中で協力して準備を進めることができたね。
- ・土日の親子連れを対象にしたゲームコーナーやガチャで、集客は大成功だったね。2日間の来場者は600人だった。次は、商店街での企画を考えたいな。

○ベルロード商店街でツルスイを開催しよう。【本時】

- ・商店街は、リコパと対象が同じとなる。だからリコパのアップグレード版となるように再度セクションを分け、役割分担をして準備を進める。

- ・リコパでの反省を生かし、アンケートを取って思いが伝わったかどうかを調査するとともに、生き物の説明だけでなく、活動や願いを説明するスタッフも必要だね。
- ・商店街の店舗にも貢献できるようにスタンプラリー形式で、店舗前に水槽を置く形で展示しよう。

○ナイス株式会社IFホールでツルスイを開催しよう。

- ・商店街でのツルスイの反省とアンケート結果の分析を行う。
- ・分析結果から分かったことを基にして、次回のツルスイに必要な情報内容や発信方法を考える。
- ・次回の開催に必要な準備を整理し、セクションごとに役割分担をして準備を進める。

- ・自分から活動の趣旨や思いを話すことで、来てくれた人に伝えることができたね。
- ・これから先、持続可能な活動にしていくために必要なことを考える必要があるね。

7 本時について

(1)本時目標

今までのツルスイを振り返ることを通して、成果と課題を整理・分析し、若い世代に伝えていくことが川やまちの環境保全につながることに気づき、次回のツルスイに必要なものを考え表現することができるようにする。

(2)YP目標

課題解決へ向け目標を達成できるようにお互いの意見を尊重しながら、話し合いを進めることができる。

予想される子どもの活動と内容	□支援 ■評価 (ス) スキルのための支援
<p>今までのツルスイを分析して、次のイベントに必要なことを考えよう。</p>	
<p>1. 「鶴見川の魅力と課題」の発信をしてきて、よかったことと課題について、具体的な場面や理由をもとに自分の考えを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街では、活動の解説員がいたことで、ツルスイの目的を伝えることができたと思う。 ・子どもたちにも生き物の魅力や楽しさが伝わったと思う。本物の生き物を見るだけでなく、ゲームやスタンプでより楽しい思い出になった。 ・友達と一緒に協力して活動したことで、自分たちも楽しくできた。その楽しさは来てくれた人にも伝わったと思う。 ・親子で楽しそうにゲームをしてくれていた姿を見たら、自分たちも楽しくてうれしい気持ちになった。 ・一所懸命頑張ってきたことが、まちの人に伝えられて嬉しいし楽しい。 <p>2. 話し合いの内容整理し、よかったことを残しながら課題を解決するために必要な今後のアイデアについて考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども世代やその親御さん世代には、鶴見川の魅力と課題を伝えられたと思う。 ・やっぱり、20代の人たちに伝えることが難しい。イベントに参加してくれた対象は、どちらも親子連れがメインだったからじゃないかな。 ・SNSを活用してつながると、若い世代にも理解が広がる。 <p>3. 次の時間の活動を考え、振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間は、今日考えた楽しさが今の原案で伝わるか見直さないといけないね。 ・まちへの感謝についても具体的に考えたほうがいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 今回のイベントの細かな振り返りではなく、これまでの情報発信の活動を振り返って考えるようにする。 □ 事前にそれぞれの児童の振り返りについての考えを把握しておく。 □ 事前のみとりを生かし、よかったこと課題についてPMIを使って、板書に分かりやすく書く。 □ 考えが広がったり深まったりするように、必要に応じて意図的指名を行い、多様な考えに触れられるようにする。 <p>(ス) 指導者がそれぞれの考えを十分に認めるとともに、多様な考えがでることのよさを価値づけるようにする。</p> <p>■ これまでのツルスイを振り返り、自分たちが伝えたい「魅力と課題」について、伝わっていることやこれからの課題を考え表現している。 【発言・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 時間を十分に確保し、考えや本時についてじっくり振り返りができるようにする。

【目指す子どもの姿のための手立て：課題解決のために自分の思いや願いを表現し、学び合う姿】

- ① 話し合いの内容は思考ツールを活用することで、「魅力と課題」を整理して分かりやすくし、解決していくための考えが深まるようにする。

	P	M	I
魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・水槽スタンプラリー たくさんの生き物が実際に鶴見川にいることを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間がながくなってしまった。でも、その時間を活用して解説員が話しかけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の反省を生かして、待ち時間に効果的に活動の趣旨を伝えることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の解説員 来てくれた方に活動の目的を伝えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を共有しても、実際に行動に移せないといけな いけど、その確認はできな い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンアップポイント作 戦を自分たちで立ち上げ て、行動する人を増やした い。一回でも参加すると、 ごみが気になって自分か ら拾いたくなるから。
アン ケ ー ト 分 析	<ul style="list-style-type: none"> ・汚い川だと思っていたけど、 実際に違うことが知れてよか った。 ・開催したことで、一定の興味 と課題の共有をすることがで きた。 ・PRカードも配付して、「あと で見てください」と渡せたこ とがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来てくれた人たちは、親子 世代なので、やっぱり 20 代の人たちへの情報発信 が弱い。 ・カードを渡せる範囲が狭か ったため、多くの人に配る ことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人向けのイベントを開 催することで、知名度を上 げ、理解が広まるようにし たい。 ・イベント開催へ向けて、チ ラシなどと一緒に若い人が 集まる場所で配布していく。

8 成果と課題

(1) 成果 材について

まちの魅力と課題を同時に扱えることで、情報発信をする価値がある。また、自然を教材とすることで子どもたちが没頭した活動にもなりやすい。

(2) 成果 身に付いた力について

問題解決を通して、思考力＝想像力・分析力・判断力・発想力・創造力を身に付けることができた。また、グループに分かれて活動していても、互いの活動を補い合ったり、助け合ったりすることで目的に向かって団結することの意味や価値にも気付くことができた。

振り返りの視点を示し、その時間、その活動のめあてを意識しながら感想や活動を見直すことで、メタ認知的な思考ができるようになってきた児童がいた。振り返りを反省という意味ではなくリフレクションとして考え、自分の行動や言動、内面の変化や成長について見つめ直す時間としていくことで、子どもが自分たちの成長に気付けるようになった。

(3) 課題

全体を見たときに、文章力や表現力は高めたいという課題があるが、自己内評価で見たときに、総合の学習を積み重ねてきたことで身に付いたであろう表現力の向上もみられる。その表現が日常でも引き出せるような日頃の指導や学校全体としての取組を考えていきたい。

連携機関を決めて進めていくことは大切だが、連携先に合わせすぎると子どもの意識が保てなくなる。あくまでも学習を優先した計画を立てていくことが重要。